

2022年度事業報告および決算書

(2022年4月1日から2023年3月31日)

■会 員 (2023年3月31日現在)

正会員（個人）499名（フリーランス395名、インハウス43名、団体・学校61名）

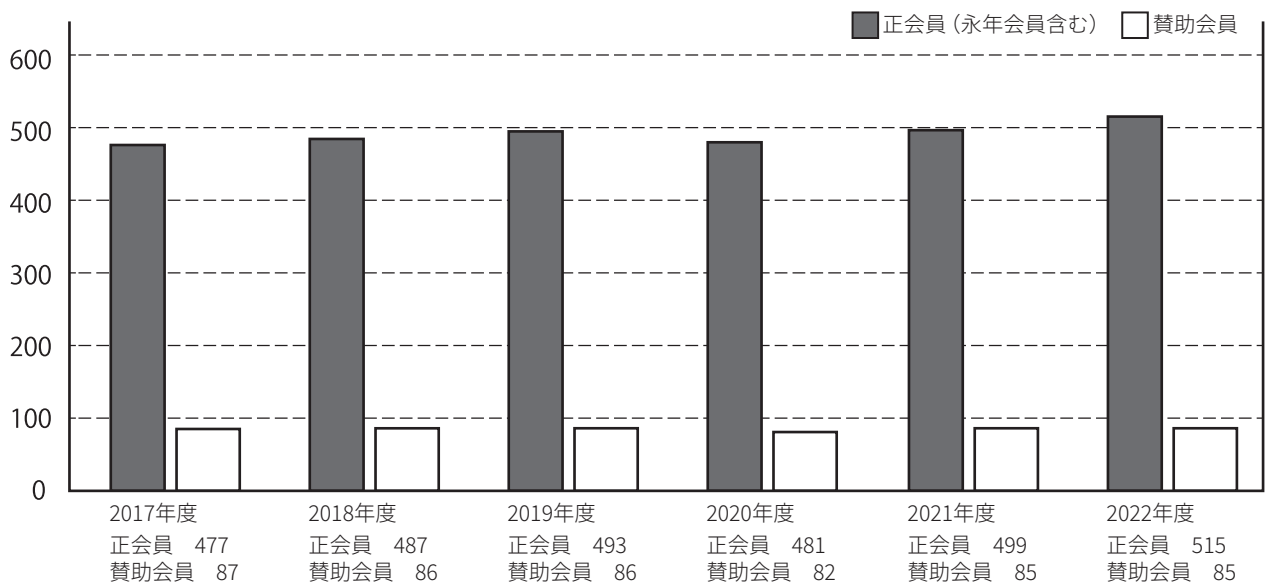
〔内 永年会員110名、入会20名、退会11名、死亡4名〕

正会員（法人・団体）16社（入会2社）

賛助会員（団体）68社 150口

賛助会員（個人）17名（入会3名） 学生会員18名

会員数の推移



■会 議

1. 定時総会

2022年6月12日（土） 午後1時30分～2時30分、AXISギャラリーにおいて第54回定時総会を開き、下記議案を決議した。

第1号議案：2021年度事業報告及び決算書（案）の件

第2号議案：会員規定改定（案）の件

報告：2022年度事業計画および予算書

2. ブロック総会

2022年度ブロック総会は、下記の会場において開かれた。

東日本ブロック：2022年6月12日 会場 AXISギャラリー

中部ブロック：2022年6月18日 会場 名古屋造形大学

北陸ブロック：2022年6月18日 会場 オンライン開催

関西ブロック：2022年6月26日 会場 オンライン開催

西日本ブロック：2022年8月13日 会場 メール総会

3. 理事会

以下の件について議決、検討、審議、報告を行った。

第1回理事会（2022年5月14日 オンライン及びJIDAギャラリー）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、事業報告と決算の承認、総会第2号

議案の承認、DMセクションvol.24 審査員の承認、CJIDC との連携協力の承認、各種規定改定についての検討、70 周年記念事業についての検討、セミナー他事業の報告、渉外委員会の報告、広報事業の報告、ブロック交流員会報告、事務局諸報告

第 2 回理事会（2022 年 7 月 23 日 オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、受託事業規程および関連規程・規則の改訂についての検討、70 年記念事業についての検討、70 周年特別企画「入会金無料キャンペーン」についての検討、ミュージアム受賞者を対象とした JIDA 会員勧誘についての検討、2023 年度定時総会開催と D8 合同開催についての検討、寄付者への返礼についての検討、資格付与及び資格検定に関する報告、インハウス委員会の報告、CJIDC 及び美的からの受託事業報告、広報委員会の報告、2022 年度 6 月末収支決算報告、事務局諸報告

第 3 回臨時理事会（2022 年 8 月 8 日 オンライン）

入会審査と承認、70 周年特別企画「入会金無料キャンペーン」についての検討

第 4 回理事会（2022 年 10 月 8 日 オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、選挙管理委員選任の承認、AXIS 社寄付金の承認、受託事業の承認、70 周年特別企画「入会金無料キャンペーン」議案取り下げについての承認、70 周年事業予算の確認及び一部見直しについての検討、広報ダイヤモンド社についての検討、D82023 年合同イベントの報告、70 周年事業の進捗と計画の報告、資格付与及び資格検定に関する報告、ミュージアム事業に関する報告、ブロック交流員会からの報告、各ブロック報告、2022 年度 9 月収支決算報告、事務局諸報告

第 5 回理事会（2022 年 12 月 10 日 オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、資格検定員会の利益相反取引の承認、受託事業の承認、選挙関連規程改定案の承認、法人格についての検討、2023-24 年度役員選挙実施日程についての検討、記念式典における配信業務委託経緯について、賀詞交歓会とブロック予算についての検討、中間監査報告、ミュージアム事業に関する報告、70 周年記念事業に関する報告、資格付与及び資格検定に関する報告、学生会員募集に関する報告、ブロック交流員会の報告、北陸ブロック報告、2022 年度 9 月収支決算報告、事務局諸報告

第 6 回理事会（2023 年 2 月 4 日 オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、役員規程改定案と監事監査運営規則改定案の承認、D8 サイト追加費用の承認、「JIDA デザイン検定」名称変更と商品登録の承認、社会課題研究委員会の理事報酬の承認、70 周年記念事業における理事報酬の承認、事業管理体制についての検討、D8 交流委員選任についての検討、2023 年度事業計画と予算案の検討、ミュージアム事業に関する報告、1 月末委員会収支報告、ブロック交流委員会報告、事務局諸報告

第 7 回理事会（2023 年 3/18 オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、2023 年度事業計画と予算案の承認、資金調達及び設備投資見込みについての承認、理事報酬の承認、事業管理体制についての検討、PD 検定名称変更計画についての検討、「医・工・デザイン研究部会」設置の報告、2023 年度理事会日程と永年会員についての報告、3 月 5 日時点の収支計算報告、事務局諸報告

理事会出欠状況

出席回数（出席数・欠席数）

理事：太刀川英輔（7・0） 御園秀一（7・0） 蘆澤雄亮（7・0） 稲垣揚平（7・0） 小幡真也（6・1）
古賀康隆（6・1） 佐藤敏明（7・0） 芝操枝（7・0） 谷村秀（6・1） 藤本英子（4・0） 松本有（4・3）
監事：長谷高史（7・0） 横田英夫（4・0）

■事業報告

1. 2022 年度活動概要

理事長 太刀川英輔

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）は、2022 年 10 月をもって創立 70 周年を迎えました。その節目の年となったこの 1 年間は、70 周年を記念する各種事業を企画・推進し、アニバーサリーとして活発な活動が実現できました。JIDA が行なう公益 6 事業、①資格付与事業、②セミナー事業、③体験活動事業、④ミュージアム事業、⑤調査・研究及びその普及事業、⑥内外関係機関との交流及び協力を行う事業、それぞれの事業の中で 70 年の歴史を再認識し、その足跡を振り返る年とすることができました。特にセミナー事業では「70 周年記念リレーセミナー」と称し、企業内デザイナーが製品開発の中での実体験を通してデザインを語る連続セミナーを開催するなど、多数の一般聴取者に広く発信をすることができました。関係機関との交流・協力では、日本デザイン団体協議会（D8）の幹事団体として加盟団体を牽引し、経済産業省や日本デザイン振興会なども巻き込んだデザインイベントの開催、または他団体の事業に協力するなどの活動が行なわれました。また、コロナによる DX 化の流れを上手く捉え、IT 系各種サービスを活用した発信力の強化や、公式サイトの刷新による広報の充実化を図りました。また 30 年ぶりの日本開催となる世界デザイン会議「WDA 東京 2023」の招致が決まり、日本から世界にデザインを発信する準備を現在進めています。こうした活動によってデザインの普及啓発がより一層幅広く、充実した内容でお届けできたことは大きな成果です。

（1）資格付与事業 <信頼される職能の確立>

インダストリアルデザインの普及・啓発を目的に、商品開発に関わる人やスマートな暮らしをしたい人に向けた関連知識の評価となるプロダクトデザイン検定（PD 検定）事業と関連出版事業、この二つの事業の相乗効果を基本に運営している。本年度は出版事業の品質改善に努めたため、広報や普及活動を計画どおりに実施できず受験者数は減少したが、2 級公式テキストの増刷前倒し実施で当初予算計画はほぼ達成できた。

1）PD 検定事業

本事業は受験料、資格認定登録費用を財源としており、事業成長の鍵は受験者数にある。その受験者数は計画に対して約 20% 減、事業収益は計画に対して約 10% 減であった。この要因のひとつは専門学校生の減少から団体受験者が減ったことである。一方、社会人合格者のうち資格認定登録数が約 1.8 倍となり、本検定の狙いとした「デザイン関連知識の理解度評価」が業務上の「推奨資格」として認められつつあることを想定できる。また、さらに認知度を上げるために新しいブランディング施策（検定名称の変更）の検討を行った。

2）関連出版事業

本事業は PD 検定 1 級の公式テキスト（赤本）と 2 級の公式テキスト（緑本）、および 1 級問題集、2 級問題集の販売に関わる収入を財源としており、本年度は計画に対して約 1.8 倍となった。この増収要因は 2 級公式テキストの増刷であり、修正版準備のために販売を一時停止した影響をカバーした。また、当初計画していた「プロダクトデザインの基礎」（緑本）の改訂版検討には着手ができず、次年度以降に繰り越すこととなった。

（２）セミナー事業 《専門的知見の充実による社会貢献の推進》

創立 70 周年事業の推進に伴い、各委員会やブロックにおいて様々なセミナーを多数開催したことによって、インダストリアルデザインの普及啓発を強力に推進できた 1 年だった。コロナウィルスへの慣れと状況の改善もあって、対面開催も可能になるなど影響も限定的になってきたことで、開催し易くなり参加者も増えた。募集方法の多様化も功を奏し、リモート参加者は特に増えている。主な実施セミナーは以下の通り。

- 1) 創立 70 周年記念フォーラム「明日をひらくデザイン ～持続可能性をデザインから考える～」
- 2) 創立 70 周年記念フォーラム「デザインが日本を変える～これからの日本のデザイン政策と戦略～」
- 3) 創立 70 周年記念リレーセミナー「新たな“あたりまえ”をつくるデザインのヒミツ」
- 4) 創立 70 周年記念リレーセミナー「実際どんなプロセスでデザインしているか、今からお見せします」
- 5) デザインと漫画の領域を超えて 漫画家かっぴー講演会（東日本ブロック）
- 6) 老舗企業にイノベーションを生んだ、チームとデザイン・貝印（中部ブロック）
- 7) ONE DAY DESIGN ACADEMY（関西ブロック）
- 8) ひろでんを知ってますか？（西日本ブロック）
- 9) デザインで拓く、北陸の心豊かな未来 ～地方から発信する新しい可能性～（北陸ブロック）
- 10) 第 35 期報告会 JIDA インハウス女性デザイナー研究会報告セミナー
- 11) 欧州カーデザイン 2021「トリノ最新デザインおよび教育動向・夏季研修プロジェクト報告会」
- 12) 第 98 回勉強会 「人に優しく温かく！心を癒す効果のある木材の魅力」
- 13) 第 99 回勉強会 「あっ！こんなところにもファスナーが！」
- 14) 第 100 回勉強会 キャスターのアレコレ、「コロコロ動かす」選定ポイント
- 15) 高度デザイン人材になってデザイン経営を実現しよう（インハウス委員会）
- 16) プロダクトデザイナー、CMF デザイナーのリアル（インハウス委員会）
- 17) 手描きアイデア・スケッチによるデザインワークショップ（インハウス委員会）
- 18) デザインビジネスセミナー「補助金を上手に活かそう！活用・申請のポイントを学ぶ」
- 19) TASK2022 都内 4 区による中小企業支援事業で、デザイン活用セミナー

（３）体験活動事業 《次世代人材の育成による国家基盤の充実》

主に若手デザイナーやデザイン系の学生を対象とした体験活動は、明日の日本を背負う人々を対象とした人材育成事業であり、デザインの普及啓発に大きな役割を果たしている。以下以外にも、各地で開催される企業訪問や工場見学会なども含まれる。

1) 国際デザインワークショップ (ISDW)

学生の国際的視野を広げるために、韓国インダストリアルデザイン協会（kaid）、台湾工業デザイン協会（CIDA）と共同で国際学生デザインワークショップを毎年開催している。

コロナの影響が続く中で、前年に引き続きオンラインワークショップの形式で開催国である韓国 kaid が中心となり今年の ISDW が開催された。テーマは「Lost & Found After Corona」（コロナ体験で失ったものと得たもの）で開催期間は 8/3（水）～ 8/12（金）の 10 日間。各国からそれぞれ 20 名、計 60 名のデザイン学生が参加し 10 チームに分かれてテーマに取り組んだ。Zoom や Miro、Facebook などのコミュニケーションツールを活用しながら各チームに配置された Tutor の指導・助言の元に、学生達は活発な論議とそれぞれの専門性を活かしたチームへの貢献により素晴らしい提案をまとめ上げ、プレゼンテーションを行なった。

2) Next EcoDesign ワークショップ

正会員のプロデザイナーが学生を指導しながらデザインワークショップを行ない、「未来をつくるデザイン」として 2022 年も様々なエコデザインに取り組んだ。自然エネルギー・社会システム・インテリアプロダクト・家電・輸送機器等様々なエコデザインのコンセプトをその成果として、「サステナブルデザインの未来シナリオパネル」や「エコデザインの提案モデル」を制作、展示までを行なった。

3) 電車ワークショップ

3 歳から小学生を対象にした電車をつくるワークショップ。2022 年度は 11 月 6 日に八王子駅ビル内にてリアル開催。木材を組み合わせ、色を塗り、電車を制作するワークショップを行なった。27 名の親子が参加した。

4) 子どもデザインワークショップ

毎年恒例となっているミッドタウンでの子どもデザインワークショップ。今回は「木材を組み合わせた電車制作」「ねじを使ったキーホルダー制作」の 2 つのワークショップを実施した。東京ミッドタウンデザインハブにて 8 月 20 日（土）、21 日（日）の 2 日間実施し、親子 50 名が参加した。

(4) ミュージアム事業 <<デザインを通じた日本文化の高度化>>

1) デザインミュージアムセレクション Vol.24

24 回目となるデザインミュージアムセレクション Vol.24 を実施。230 点の推薦品の中から審査委員による選定審査と、特別審査委員によるゴールドセレクションの審査を行い、合計 54 点（ゴールドセレクション 5 点含む）を選定。例年通り AXIS ギャラリーでの展覧会、選定証授与式、デザインフォーラム、図録発行を実施した。

2) デザインミュージアム

創立 70 周年事業の一環として、11 月 20 日～29 日の間、AXIS ギャラリーにて 70 周年記念展覧会を開催した。六本木の JIDA デザインミュージアム in AXIS ではセレクション Vol.23 選定品の常設展示を、4 ヶ月毎に入れ替えて 3 回、通年を通して実施した。

3) パッケージデザインパビリオン

隔年で開催される東京パック 2022 内にて、パッケージデザインパビリオンを今年度も JIDA が企画運営を行なった。JIDA 会員 7 組を含む 22 組が出展、知財の無料相談ブースも開設した。来場者総数は約 16 万人。2022 年 10 月 12 日（水）～14 日（金）、東京ビッグサイト国際展示場。

4) 街中まるごと<デザインミュージアム>池袋

日本デザイン団体協議会（D8）が 2019 年から継続している豊島区との共催事業（2022 年は「街中まるごと<デザインミュージアム>池袋」）の中で、「インダストリアルデザインの世界・・・音楽のある暮らしとともに」と称する展示会を実施した。11 月 1 日（火）～6 日（日）、場所は池袋サンシャインシティ・ソラリウム内にて。

5) 国際医療機器展 Medtec Japan

JIDA が参加するのは 2 回目となる同展示会は、4 月 20 日（水）～22 日（金）東京ビッグサイトで行なわれ、JIDA デザインブースへの参加者は 14 社となった。ブース内には JIDA70 周年と同時に事業を紹介するコーナーも設け、医療関係の来場者にアピールできた。

（５）調査・研究及びその普及事業 《専門性の深化及び客観化》

調査・研究事業には、民間では提供できないデザインツールを使い易い形に開発し普及させる事業と、デザイナーや関連産業に関わる人たちに役立つ専門情報を提供する事業、更に社会問題を解決する目的の調査・研究を行う事業と、知的財産に関する調査・研究事業などがある。2022 年度は非常に活発な活動ができた。

１）JIDA STANDARD SAMPLES の頒布

2022 年度の頒布実績は全 128 冊と昨年度の 2 倍近い実績となった。内訳は「1」：21 冊、「2」：15 冊、「3」：7 冊、「4 A」：23 冊、「4 B」：18 冊、「6」：44 冊。新刊「6 - 木のサンプル帳」発刊に伴って周辺のサンプルを引き上げたものと考えられる。その他サンプルは全 22 冊を頒布。内訳は「アルゴ」：14 冊、「NCS」：5 冊、「RAL」：2 冊、塚田理研：1 冊。

２）KIDS DESIGN TOOLS の頒布

2022 年度の頒布実績は、子どものからだパスデータ集：4 冊、2.5 D キッズパーツ：1 セット、2 D キッズモデル：1 セット、子どものからだ図鑑：4 冊と低調な結果となった。

３）産総研、消防庁との共同研究会

「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとに事故予防に関する共同研究会を、例年通り隔月で 6 回実施した。モチベーションを創出するための提案を Web セミナーで紹介した。

４）傷害予防教育のための生活空間 3D モデルの研究

産業技術総合研究所人工知能研究センターが重点課題として、安全な環境インタラク션을支援する「保護者向けの傷害予防教育ツール」のソフト開発に取り組んでおり、その基盤フレームとなる集合住宅、戸建て住宅、日本家屋の 3 タイプの 3D モデルを研究しデータ作成した。

５）生活空間に溶け込んだ身体保持機能の研究

高齢者がバランスを崩した場合に姿勢を保持するための環境づくりとして、産業技術総合研究所の研究施設リビングラボに設置されている家具や壁などに、身体保持機能を持たせた全く新しいコンセプトの生活空間を創出するデザイン研究を実践した。

６）高齢者向け支持機能付きテーブルの研究

高齢者が椅子から立ち上がる時や周辺通過時に、姿勢保持の機能を有するテーブルの在り方を研究し、川崎市が推進する高齢者福祉事業の川崎市福祉製品等開発支援補助金を活用して、社会実装に向けたデザイン研究・開発を行った。

７）日本弁理士会意匠部会との共同研究会

日本弁理士会のメンバーとの共同研究会で、2022 年度はプチセミナー 4 回と共同公開イベントを 2 回開催した。

【プチセミナー】

- ①「展示会出展の落とし穴」「クラウドファンディングの成功事例」9/9
- ②「意匠審査における類否判断」「デザイナーの仕事」11/11
- ③「デザイナーが知っておくべき商標登録のポイント」「デザインの現場」1/13
- ④「意匠登録申請におけるポイント」「イベント・展示会の企画・運営・ブランディング」3/10

【共同公開イベント】

- ①「デザインロイヤルティ契約のきほん」～販売数に比例した報酬の方法～ 8/5
- ②「デザイナーと手を取り合う知財活用戦略」～デザインロイヤルティ契約のすすめ～ 10/12

（６）内外関係機関との交流及び協力事業 《社会貢献及びデザイン価値の拡充発展》

コロナ禍の影響で延期となった海外でのセミナーはオンライン開催、デザインフォーラムへの講演者派遣は事前録画での登壇となるなどの新しい方式も定着。日本のデザインやデザイナーに対するリスペクトを背景にした海外デザイン団体や企業からの要請は更なるネットワーク拡大へ繋がっており、日本のデザイナーの海外進出に向けた支援は協会の重要なミッションのひとつであり今後の課題でもある。

１）Asia Design Assembly（ADA） 韓国：kaid、台湾：CIDA との国際交流事業

日本（JIDA）、韓国（kaid）、台湾（CIDA）の３カ国デザイン団体で ADA を構成。各代表によるオンライン会議に参画し主要行事である各国デザイン学生ワークショップ（ISDW）の企画をメインテーマにディスカッションを重ねた。前年同様オンライン開催されたイベントの完遂に向けて、前年主催した経験を活かしながら主催者の kaid をサポートしつつ、３カ国 10 名の tutor を含めたオンラインミーティングへも参加。

２）WIDD（World Industrial Design Day）フォーラムイベント（オンライン）

WDO(World Design Organization)、JDP（日本デザイン振興会）との連携で国際インダストリアルデザインデー（6/29）のオンラインイベントを支援。デザイン・ダイアログの聞き手として豊田自動織機デザイン G から薬師忠幸 GM に参加いただき実施、広報と連携して JIDA 会員への告知も行った。

３）CHINAPLAS2022 デザインフォーラム（オンライン）

CHINAPLAS は中国で毎年開催されている最大級のプラスチックとゴムの見本市イベント。今年度はオンラインによるバーチャルショーが５月末から開催され、当協会では、デザインフォーラムでの講演のスピーカー選定と広報と連携しスピーチビデオ制作などの支援を行った。

４）WDA/World Design Assembly 2023

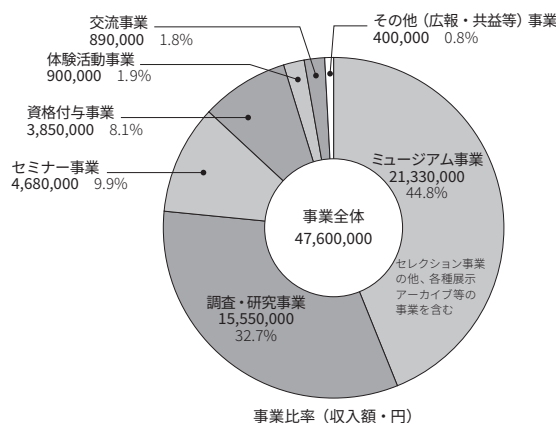
2023 年 10 月に東京で開催予定の WDO 主催の WDA2023 に向けて、イベント全体の実行計画を推進するための企画、運営、広報部会に対して協会からの人的支援を多数展開中。

５）CJIDC（中日工業設計中心）との連携事業

蘇州市政府の委託を受けた中日工業設計中心からの依頼により JIDA 公益 6 事業の範囲で中国での日本デザインとデザイナーのアピールをはじめとした関係構築の可能性を検討。MOU の締結を済ませ、個別事業は別途契約する形で進行中。

６）その他交流、協力事業

- ①中部ブロック大学の卒業制作展訪問と表彰
- ②関西ブロック学生デザイン賞
- ③北陸ブロック卒業制作展見学会



（７）共益事業 《会員扶助及び会員支援》

１）DP ホットライン

主にフリーランスデザイナーを対象にした会員向け知財相談窓口「DP ホットライン」を通年開設し、会員からの知財相談に対応している。2022 年度も意匠登録の申請に関する相談や、知財に関するトラブル等が寄せられ、専門家が真摯に対応した。

２）会報誌

毎年一度、外部向け年間活動報告書として「アニュアルレポート」を編集・印刷し、広く一般に発信している。2022 年度も 2021 年度のレポートを 8 月に 800 部印刷、内外の関係各所や全ての会員に配布した。

３）その他

公式サイトを大幅リニューアルし、委員会やブロックが自身のサイトを常時更新できるように改良した。これにより、広報に都度依頼することなく、スムーズにリアルタイムの情報発信が可能となる。

■対外事項

WDO 東京 2023 キックオフ会議	(田中特別顧問、太刀川理事長、御園副理事長、 蘆澤副理事長、金井事務局長) (4月)
D8 運営会議	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、金井事務局長) (4月)
ADA-ISDW 理事長会議 (ZOOM)	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、井上委員長、 黄ロビン委員長、古賀委員長、金井事務局長、折田事務局員) (4月)
石橋財団表敬訪問	(金井事務局長) (4月)
未来創造開発センター合同会社訪問	(中原委員長、山岡アドバイザー、芝理事、金井事務局長) (5月)
CJIDC 調印式	(太刀川理事長、御園副理事長、金井事務局長、谷口委員他) (5月)
川崎市との会議	(中原委員長、山岡アドバイザー、芝理事、金井事務局長) (6月)
産総研会議	(中原委員長、金井事務局長) (6月)
ダイヤモンド社会議 (Zoom)	(芝理事) (6月)
羽田空港ビルディング来局	(中原委員長、山岡アドバイザー、芝理事、金井事務局長) (6月)
ADA-ISDW 会議	(御園副理事長、井上委員長、折田事務局員) (6月)
川崎市&キルト工芸会議	(中原委員長、山岡アドバイザー、金井事務局長) (6月)
東京都中小企業振興公社来局	(金井事務局長) (6月)
豊島区+D8 会議	(金井事務局長) (6月)
日本特許情報機構来局	(御園副理事長、金井事務局長) (7月)
ダイヤモンド社会議 (Zoom)	(芝理事) (7月)
D8 運営会議	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、金井事務局長) (7月)
羽田空港ビルディング訪問	(金井事務局長) (7月)
CJIDC 来局調印式	(太刀川理事長、御園副理事長、谷村理事、 谷口理事、芝理事、金井事務局長、折田事務局員) (8月)
川崎市&キルト工芸会議	(芝理事、谷村理事、登委員長) (8月)
(株)STYZ 来局	(金井事務局長) (8月)
IF 日本オフィス 高田氏来局	(金井事務局長) (8月)
ダイヤモンド社来局	(芝理事) (9月)
中小企業診断士来局	(金井事務局長) (9月)
D8 運営会議	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、金井事務局長) (9月)
積水化学来局	(金井事務局長) (9月)
川崎ウェルテック会議	(中原委員長、山岡アドバイザー、金井事務局長) (9月)
(NPO) Safe Kids Japan ベランダ PROJECT	(中原委員長、山岡アドバイザー、金井事務局長) (9月)
経産省会議	(石川委員長、大縄委員、金井事務局長) (10月)
武蔵塗料(株)来局	(中島委員長、金井事務局長) (10月)
セブン銀行訪問	(蘆澤副理事長、金井事務局長) (10月)
CJIDC 調印式	(太刀川理事長、御園副理事長、金井事務局長) (11月)
D8 運営会議	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、金井事務局長) (11月)
内閣府訪問	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、 長谷監事、藤本理事、金井事務局長) (12月)
川崎市&産総研&キルト工芸来局	(中原委員長、山岡アドバイザー、金井事務局長) (12月)
キルト工芸訪問	(中原委員長、山岡アドバイザー、金井事務局長) (1月)
D8 運営会議	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、金井事務局長) (1月)
内閣府訪問	(太刀川理事長、蘆澤副理事長、長谷監事、金井事務局長) (1月)
ADA-ISDW 事前会議 (ZOOM)	(御園副理事長、井上委員長、黄ロビン委員長) (2月)
塚田理研工業(株)来局	(金井事務局長) (3月)
ADA-ISDW 理事長会議 (ZOOM)	(太刀川理事長、御園副理事長、井上委員長、 黄ロビン委員長、折田事務局員) (3月)
D8 運営会議	(太刀川理事長、御園副理事長、蘆澤副理事長、金井事務局長) (3月)

【協賛・後援】

・「第 32 回公募 2022 日本ジュエリー展」、(公社) 日本ジュエリーデザイナー協会	後援
・「2022 東京国際包装展 パッケージデザインパビリオン」、(公社) 日本包装技術協会	協力
・「学生照明展 2022」、学生照明展実行委員会	後援
・「PHASE FREE AWARD 2022」、(一社) フェーズフリー協会	後援
・「第94回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋 2022」第12回 LIFE×DESIGN」(株) ビジネスガイド社	協賛
・「キリロムグローバルフォーラム 2022」、vKirirom Japan 株式会社	後援
・「第 24 回福岡デザインアワード」、福岡県産業デザイン協議会・福岡県	後援
・「Japan Home & Building Show 2022」(一社) 日本能率協会	協賛
・「World Interiors Week 2022 in Japan」(公社) 日本インテリアデザイナー協会	後援
・「第 28 回全国高等学校デザイン選手権大会」東北芸術工科大学	後援
・「TOKYO PACK 2022 東京国際包装展」(公社) 日本包装技術協会	協賛
・「第 1 回日本パッケージデザイン学生賞」(公社) 日本パッケージデザイン協会	後援
・「富山デザインウェーブ 2022」デザインウェーブ開発委員会	後援
・「JAPAN SHOP 2023」(株) 日本経済新聞社	協賛
・「第 95 回東京インターナショナル・ギフト・ショー春 2023」(株) ビジネスガイド社	協賛
・「ジャパンツバメインダストリアルデザインコンクール」新潟県燕市物産見本市協会	後援
・「東海プロダクトデザインアワード 2022」TOKAI PRODUCT DESIGN AWARD 実行委員会	後援
・「オートカラーアワード 2022」(一社) 日本流行色協会	後援
・「PHASE FREE AWARD 2023」(一社) フェーズフリー協会	後援
・「ライティングオブジェ 2022」ライティングオブジェ制作委員会	協力
・「リチャード・サッパ・デザイン展」武蔵野美術大学	後援
・「Featured Projects 2023」(株) インクワイア designing 編集部	後援

■決算報告

内務担当理事 財務委員会委員長 御園秀一

【貸借対照表】

＜流動資産＞

- ・流動資産は、全体で前期より 6,108,936 円の増加です。
- ・主な増加科目は、現金預金、原材料、貯蔵品です。

＜固定資産＞

- ・周年事業積立預金は 2013 年度から 2020 年度までの 8 年間で合計 4,000,000 円を積立て、昨年度に 110,000 円を取崩し、残額 3,890,000 円全額を 22 年度の周年記念事業実施により取崩し、費消しました。

＜流動負債＞

- ・流動負債は前期より 4,053,116 円の増加です。
- ・未払金の主な内容は、セレクション図録と 70 周年記念誌の印刷費、PD の執筆料や TASK 事業の報酬などです。
- ・前受金は、2023 年度 MEDTEC 参加費と会費が主なものです。

【正味財産増減計算書】

＜収益＞

- ・経常収益は、前期より 18,098,519 円増加し 73,382,669 円です。
- ・事業収益は、前期より 19,437,060 円増加し 41,301,382 円です。
- ・事業収益で増加した主なものは、受託事業、書籍頒布、展示・セミナー会費などです。
- ・受取助成金は、石橋財団からの 430 万円、寄付金は AXIS 社などからの 200 万円弱です。

＜費用＞

- ・経常費用は、前期より 20,346,940 円増加し 75,040,047 円。事業費は 19,163,101 円、管理費は 1,183,839 円の増加でした。
- ・事業費で増加した主な科目は、材料費、印刷製本費、諸謝金、出展料・参加費などです。

【正味財産増減計算書内訳表】

- ・前期と同様の配分率により、公益事業会計・その他事業会計・法人会計に配分しています。
- ・公益目的事業会計の当期経常増減額は、△2,003,523 円です。

【公益認定 3 要件について】

- ・当期経常増減額は、公益目的事業会計が△2,003,523 円ですが、周年事業の資金取崩し 3,890,000 円があるため 1,886,477 円の利益となってしまう、第一段階の収支相償の要件は満たすことができませんでした。更に他会計振替額が 347,202 円あるため、加算後の余剰金は 2,233,679 円となり、2023 年度で費消することとなります。
- ・公益目的事業比率は 82.5% となり、公益認定要件の事業比率は満たしております。
- ・遊休財産保有制限についても、公益事業費用の金額内に遊休財産財産額が収まり、要件を満たします。

Ⅰ 貸借対照表
令和 5年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	14,374,906	7,331,121	7,043,785
未収会費	781,000	807,000	△ 26,000
未収金	2,170,952	3,329,879	△ 1,158,927
前払金	26,000	753,249	△ 727,249
商品	1,412,558	1,577,150	△ 164,592
原材料	4,502,274	3,419,928	1,082,346
貯蔵品	1,016,228	956,655	59,573
流動資産合計	24,283,918	18,174,982	6,108,936
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
JIDA基金	8,502,238	8,502,068	170
基本財産合計	8,502,238	8,502,068	170
(2) 特定資産			
周年事業積立預金	0	3,890,000	△ 3,890,000
特定資産合計	0	3,890,000	△ 3,890,000
(3) その他固定資産			
設備造作	254,511	291,336	△ 36,825
什器備品	59,056	118,089	△ 59,033
ミュージアム収蔵品	350,658	350,641	17
電話加入権	100,500	100,500	0
敷金	0	42,480	△ 42,480
保証金	6,489,000	6,489,000	0
その他固定資産合計	7,253,725	7,392,046	△ 138,321
固定資産合計	15,755,963	19,784,114	△ 4,028,151
資産合計	40,039,881	37,959,096	2,080,785
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	8,155,210	3,361,781	4,793,429
前受金	1,694,000	1,552,540	141,460
前受会費	1,618,000	1,955,000	△ 337,000
預り金	237,125	294,398	△ 57,273
未払消費税等	251,600	739,100	△ 487,500
流動負債合計	11,955,935	7,902,819	4,053,116
負債合計	11,955,935	7,902,819	4,053,116
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	28,083,946	30,056,277	△ 1,972,331
(うち特定資産への充当額)	(8,502,238)	(8,502,068)	(170)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(3,890,000)	(△ 3,890,000)
正味財産合計	28,083,946	30,056,277	△ 1,972,331
負債及び正味財産合計	40,039,881	37,959,096	2,080,785

Ⅱ 正味財産増減計算書

令和 4年 4月1日 から令和 5年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	721,000	855,000	△ 134,000
受取入会金	721,000	855,000	△ 134,000
受取会費	24,795,000	24,862,000	△ 67,000
正会員受取会費	15,372,000	15,210,000	162,000
賛助会員受取会費	7,400,000	8,300,000	△ 900,000
個人賛助会員受取会費	306,000	252,000	54,000
法人正会員受取会費	1,717,000	1,100,000	617,000
事業収益	41,301,382	21,864,322	19,437,060
書籍頒布収益	5,907,877	3,449,691	2,458,186
検定登録収益・問題使用収益	2,770,500	2,899,600	△ 129,100
展示・セミナー会費収益	10,136,500	8,022,838	2,113,662
受託事業による収益	15,150,955	4,232,896	10,918,059
その他の活動収益	7,095,550	3,259,297	3,836,253
委員会収入	240,000	0	240,000
受取補助金等	4,342,000	4,529,000	△ 187,000
受取地方公共団体補助金	42,000	0	42,000
受取民間助成金	4,300,000	4,529,000	△ 229,000
受取寄付金	1,962,000	3,165,291	△ 1,203,291
受取寄付金	1,962,000	3,165,291	△ 1,203,291
雑収益	261,317	8,567	252,750
受取利息	325	317	8
雑収益	260,992	8,250	252,742
経常収益計	73,382,699	55,284,180	18,098,519
(2) 経常費用			
事業費	69,118,770	49,955,669	19,163,101
期首棚卸高	5,953,733	7,221,304	△ 1,267,571
期末棚卸高	△ 6,931,060	△ 5,953,733	△ 977,327
給料手当	10,267,260	10,184,308	82,952
雑給	3,132,175	2,378,216	753,959
退職金	0	296,888	△ 296,888
法定福利費	1,604,333	1,626,795	△ 22,462
福利厚生費	0	33,567	△ 33,567
旅費交通費	2,353,193	1,166,412	1,186,781
通信運搬費	1,302,221	1,185,684	116,537
会議費	985,481	411,171	574,310
減価償却費	74,769	65,710	9,059
什器・備品購入費	25,854	0	25,854
印刷製本費	4,511,784	2,298,591	2,213,193
出展料・参加費	3,944,820	1,545,500	2,399,320
材料費	9,835,969	3,278,050	6,557,919
水道光熱費	2,099,309	1,975,536	123,773
賃借料	5,313,721	5,717,205	△ 403,484
団体諸会費	583,000	598,000	△ 15,000
諸謝金	10,500,882	5,682,509	4,818,373
租税公課	676,131	741,464	△ 65,333
事務用品費	524,790	415,942	108,848
委託費	9,433,513	7,734,954	1,698,559
懇親会費	758,390	0	758,390
雑費	1,326,582	1,351,596	△ 25,014
委員会振替	240,000	0	240,000
式典運営費	601,920	0	601,920
管理費	5,921,277	4,737,438	1,183,839
給料手当	1,811,869	1,797,231	14,638
雑給	770,019	297,000	473,019
退職金	0	52,392	△ 52,392
法定福利費	283,118	287,082	△ 3,964
福利厚生費	14,338	0	14,338
旅費交通費	290,844	144,163	146,681
通信運搬費	128,791	115,991	12,800
減価償却費	21,089	18,533	2,556
什器・備品購入費	4,924	0	4,924
印刷製本費	187,991	95,775	92,216
水道光熱費	341,748	321,599	20,149
賃借料	937,715	1,008,918	△ 71,203
諸謝金	110,643	129,934	△ 19,291
租税公課	4,319	4,736	△ 417
事務用品費	85,431	67,711	17,720
委託費	192,521	157,856	34,665
雑費	234,102	238,517	△ 4,415
式典運営費	501,815	0	501,815
経常費用計	75,040,047	54,693,107	20,346,940
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,657,348	591,073	△ 2,248,421
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,657,348	591,073	△ 2,248,421
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
収蔵品受贈益	17	40	△ 23
経常外収益計	17	40	△ 23
(2) 経常外費用			
未収会費取立不能分	315,000	412,000	△ 97,000
経常外費用計	315,000	412,000	△ 97,000
当期経常外増減額	△ 314,983	△ 411,960	96,977
当期一般正味財産増減額	△ 1,972,331	179,113	△ 2,151,444
一般正味財産期首残高	30,056,277	29,877,164	179,113
一般正味財産期末残高	28,083,946	30,056,277	△ 1,972,331
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	28,083,946	30,056,277	△ 1,972,331

Ⅱ 正味財産増減計算書内訳表

令和 4年 4月1日 から令和 5年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業	その他の事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取入金	360,500	245,140	115,360	721,000
受取入金会金	360,500	245,140	115,360	721,000
受取会費	12,397,500	7,499,700	4,897,800	24,795,000
正会員受取会費	7,686,000	4,611,600	3,074,400	15,372,000
賛助会員受取会費	3,700,000	2,220,000	1,480,000	7,400,000
個人賛助会員受取会費	153,000	153,000	0	306,000
法人正会員受取会費	858,500	515,100	343,400	1,717,000
事業収益	41,256,382	45,000	0	41,301,382
書籍頒布収益	5,907,877	0	0	5,907,877
検定登録収益・問題使用収益	2,770,500	0	0	2,770,500
展示・セミナー会費収益	10,136,500	0	0	10,136,500
受託事業による収益	15,150,955	0	0	15,150,955
その他の活動収益	7,050,550	45,000	0	7,095,550
委員会収入	240,000	0	0	240,000
受取補助金等	4,342,000	0	0	4,342,000
受取地方公共団体補助金	42,000	0	0	42,000
受取民間助成金	4,300,000	0	0	4,300,000
受取寄付金	1,962,000	0	0	1,962,000
受取寄付金	1,962,000	0	0	1,962,000
雑収益	261,317	0	0	261,317
受取利息	325	0	0	325
雑収益	260,992	0	0	260,992
経常収益計	60,579,699	7,789,840	5,013,160	73,382,699
(2) 経常費用				
事業費	62,583,222	6,535,548	0	69,118,770
期首棚卸高	5,953,733	0	0	5,953,733
期末棚卸高	△ 6,931,060	0	0	△ 6,931,060
給料手当	9,180,138	1,087,122	0	10,267,260
雑給	3,037,175	95,000	0	3,132,175
法定福利費	1,434,463	169,870	0	1,604,333
旅費交通費	2,115,230	237,963	0	2,353,193
通信運搬費	1,101,879	200,342	0	1,302,221
会議費	522,305	463,176	0	985,481
減価償却費	62,787	11,982	0	74,769
什器・備品購入費	25,854	0	0	25,854
印刷製本費	3,759,820	751,964	0	4,511,784
出展料・参加費	3,944,820	0	0	3,944,820
材料費	9,810,889	25,080	0	9,835,969
水道光熱費	1,904,024	195,285	0	2,099,309
賃借料	4,813,606	500,115	0	5,313,721
団体諸会費	443,080	139,920	0	583,000
諸謝金	10,500,882	0	0	10,500,882
租税公課	669,571	6,560	0	676,131
事務用品費	433,257	91,533	0	524,790
委託費	8,374,649	1,058,864	0	9,433,513
懇親会費	0	758,390	0	758,390
雑費	1,186,120	140,462	0	1,326,582
委員会振替	240,000	0	0	240,000
式典運営費	0	601,920	0	601,920
管理費	0	0	5,921,277	5,921,277
給料手当	0	0	1,811,869	1,811,869
雑給	0	0	770,019	770,019
法定福利費	0	0	283,118	283,118
福利厚生費	0	0	14,338	14,338
旅費交通費	0	0	290,844	290,844
通信運搬費	0	0	128,791	128,791
減価償却費	0	0	21,089	21,089
什器・備品購入費	0	0	4,924	4,924
印刷製本費	0	0	187,991	187,991
水道光熱費	0	0	341,748	341,748
賃借料	0	0	937,715	937,715
諸謝金	0	0	110,643	110,643
租税公課	0	0	4,319	4,319
事務用品費	0	0	85,431	85,431
委託費	0	0	192,521	192,521
雑費	0	0	234,102	234,102
式典運営費	0	0	501,815	501,815
経常費用計	62,583,222	6,535,548	5,921,277	75,040,047
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,003,523	1,254,292	△ 908,117	△ 1,657,348
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,003,523	1,254,292	△ 908,117	△ 1,657,348
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
収蔵品受贈益	17	0	0	17
経常外収益計	17	0	0	17
(2) 経常外費用				
未収会費取立不能分	315,000	0	0	315,000
経常外費用計	315,000	0	0	315,000
当期経常外増減額	△ 314,983	0	0	△ 314,983
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 2,318,506	1,254,292	△ 908,117	△ 1,972,331
他会計振替額	347,202	△ 347,202	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,971,304	907,090	△ 908,117	△ 1,972,331
一般正味財産期首残高	△ 11,945,648	16,837,216	25,164,709	30,056,277
一般正味財産期末残高	△ 13,916,952	17,744,306	24,256,592	28,083,946
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 13,916,952	17,744,306	24,256,592	28,083,946

IV 財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記
該当なし。

2. 重要な会計方針

(1)有価証券の評価基準及び評価方法

市場価額のあるものは、時価法を採用している。

満期保有目的の債券は償却原価法(定額法)によっている。

その他のものは原価法を採用している。

(2)棚卸資産の評価基準及び評価方法

材料及び貯蔵品は最終仕入原価法によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法

設備造作については、旧定額法及び定額法を採用している。

什器備品については、旧定額法及び定額法を採用している。

(4)引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(5)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
JIDA基金	8,502,068	170	0	8,502,238
小 計	8,502,068	170	0	8,502,238
特定資産				
周年事業積立預金	3,890,000	0	3,890,000	0
小 計	3,890,000	0	3,890,000	0
合 計	12,392,068	170	3,890,000	8,502,238

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対する額)
基本財産				
JIDA基金	8,502,238	(0)	(8,502,238)	-
小 計	8,502,238	(0)	(8,502,238)	(0)
特定資産				
小 計	0	(0)	(0)	(0)
合 計	8,502,238	(0)	(8,502,238)	(0)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
設備造作	1,846,455	1,591,944	254,511
什器備品	8,690,639	8,631,583	59,056
合 計	10,537,094	10,223,527	313,567

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
ふるさと納税制度 団体応援補助金	港区	0	42,000	42,000	0	-
助成金						
寄附助成金	(公財)石橋財団	0	4,300,000	4,300,000	0	-
合 計		0	4,342,000	4,342,000	0	

7. 関連当事者との取引の内容

開示すべき取引は該当なし。

8. 引当金の内訳

今期は該当なし。

9. その他

(資産除去債務に関する注記)

当法人は事務所に係る不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復義務を有している。
しかし、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、かつ、将来移転等の予定もないことから、
資産除去債務を合理的に見積もることができない。
そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していない。

V 付属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

注記に同内容が記載のため省略。

2. 引当金の明細

注記に同内容が記載のため省略。

公益目的保有財産の明細

財産種別	公益認定前取得 不可欠特定財産	公益認定後取得 不可欠特定財産	その他の 公益目的保有財産	使用事業
その他固定資産設備造作			ギャラリー照明設備等の65.5%相当額 166,705 円	公益目的事業 (その他事業・法人会計と共用)
その他固定資産什器備品			パソコン・机等の65.5%相当額 38,681 円	公益目的事業 (その他事業・法人会計と共用)
その他固定資産ミュージアム収蔵品			ミュージアム収蔵品 350,658 円	公益目的事業
合計			556,044 円	

VI 財産目録
令和 5年 3月31日 現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
【流動資産】				
	現金	手許保管	運転資金	166,836
	預金	普通預金 みずほ銀行六本木支店他	運転資金	10,202,030
		郵便振替 六本木駅前支店	運転資金	4,006,040
	未収会費	令和4年度会費	公益目的事業及び法人の管理運営に係る会費の未収分	781,000
	未収金	令和4年度事業収入	公益目的事業に係る未収分	2,170,952
	前払金	令和5年度巡回展会場費	公益目的事業に係る前払金	26,000
	商品	サンプル帳1〜6	公益目的事業の頒布品在庫	1,412,558
	原材料	サンプル帳仕掛品	公益目的事業の頒布品仕掛品在庫	4,502,274
	貯蔵品	書籍	公益目的事業の在庫	1,016,228
流動資産合計				24,283,918
【固定資産】				
(基本財産)				
	JIDA基金	定期預金 みずほ銀行六本木支店	公益目的事業の寄附を基本財産として管理	8,502,238
基本財産合計				8,502,238
(特定資産)				
特定資産合計				0
(その他固定資産)				
	設備造作	ギャラリー照明設備	公益目的事業及び管理運営に使用	254,511
	什器備品	パソコン、机等	公益目的事業及び管理運営に使用	59,056
	ミュージアム収蔵品	ミュージゼ蔵収蔵品	公益目的事業及び管理運営に使用	350,658
	電話加入権	5回線	公益目的事業及び管理運営に使用	100,500
	保証金	事務局分	公益目的事業及び管理運営に使用	6,489,000
その他固定資産合計				7,253,725
固定資産合計				15,755,963
資産合計				40,039,881
【流動負債】				
	未払金	令和4年度事業費	公益目的事業及び管理運営に伴う未払い金	8,155,210
	前受金	令和5年度事業費	公益目的事業及び管理運営に係る前受金	1,694,000
	前受会費	令和5年度会費	公益目的事業及び管理運営に係る年会費収入	1,618,000
	預り金	源泉所得税他	公益目的事業及び管理運営に係る預かり金等	237,125
	未払消費税等	令和4年度消費税	公益目的事業及び管理運営に伴う消費税	251,600
流動負債合計				11,955,935
【固定負債】				
固定負債合計				0
負債合計				11,955,935
正味財産				28,083,946

監査報告書

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

理事長 太刀川英輔 殿

2023年5月11日

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

監事

長谷高史 

私は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第55会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関連書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関連書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、附属明細書、財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し法人の収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書、事業報告の附属明細書は事実であると認める。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。